全農
NEWS RELEASE
広島大学
広島大学広報室
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
TEL：082-424-6762 FAX：082-424-6040
E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

令和６年５月１０日

現地説明・見学会（５月１６日（木）・全農チャレンジファーム広島・三原農場）のご案内

広島大学　×　ＪＡ全農ひろしま
畜産たい肥（鶏ふん）の有効活用に向けた共同研究の取組み

情報提供

ＪＡ全農ひろしまと国立大学法人広島大学は、資源循環型農業の拡大に寄与する「水稲栽培における鶏ふん堆肥の有効活用」を目的に、令和４年度から共同研究を行っており、今年度が最終年になります。共同研究の開始にあたり**５月１６日（木）１０時**より、**概要説明会**と**現地作業見学会**を全農チャレンジファーム広島・三原農場で行います。

農水省が策定した「みどりの食料システム戦略」において「耕畜連携による環境負荷低減技術の導入」が方針の一つとして謳われているように、畜産たい肥活用の技術向上は、持続可能な農業の実現、ひいては地球温暖化の抑制に向けた重要な課題となっています。また、円安やロシアのウクライナ侵攻（肥料原料供給の支障）等を背景に、原料の大部分を輸入に依存する化学肥料原料価格の高騰が農家経営を圧迫していることからも、国内の資源を有効活用する必要性が急激に高まっています。

これらの現状、課題を踏まえ、過去２年間の共同研究では、（１）鶏ふんたい肥の施肥量の違いによる生育や収量の検証、（２）鶏ふんたい肥の施肥量の違いによる栄養価や食味値などの比較、（３）メタン発生量抑制のために中干し期間を延長した場合の生育や収量の調査を行いました。２年間の研究結果では、鶏ふん堆肥の施肥量は１０ａあたり６００～８００キロが収量・品質ともに安定した数値となりました。また、中干し期間の延長時期が梅雨時期に重なる場合は収量や品質への影響は小さいと考えられました。今年度は新たに、**（４）畜産たい肥の施用と中干し期間の延長が、水田からのメタン発生量に与える影響も研究項目に追加し**、水稲栽培の持続可能な農業の確立を目指します。

つきましては、下記のとおり実施いたしますので、ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、是非ご取材いただきたく、ご案内を申しあげます。

記

日時：令和６年５月１６日（木）10：00～12：00
場所：全農チャレンジファーム 広島・三原農場内の水田圃場
（三原市高坂町真良２１１０−４）
内容：◆広島大学と JA 全農ひろしまとの共同研究についての説明
〇令和６年度 共同研究の取り組みについて
【説明者】ＪＡ全農ひろしま 営農資材部 豊田勝司 部長
〇共同研究の概要、調査計画、昨年度の結果について
【説明者】広島大学大学院統合生命科学研究科 長岡俊徳 准教授
〇試験圃場の概要、本日の作業（田植え）等について
【説明者】ＪＡ全農ひろしま 営農資材部 広島営農技術センター
片島恒治 センター長
◆鶏ふん堆肥を施用した水稲栽培試験圃場への「定植（田植え）」作業

■２年間の取り組みの様子

ご出席される場合は、準備の都合上、５月 15 日（水）１２時までに下記あてご一報くださるようお願いいたします。

＜取材申込はこちらへ＞
ＪＡ全農ひろしま 改革推進部 改革推進課 狩谷・若林
（事務所：082-846-4701、携帯：080-2929-5152）

【お問い合わせ先】

広島大学大学院統合生命科学研究科・生物生産学部　准教授　長岡俊徳
Tel：082-424-7969
E-mail：tnagaok@hiroshima-u.ac.jp

ＪＡ全農ひろしま 改革推進部 改革推進課 狩谷・若林
Tel：082-846-4701　携帯：080-2929-5152

発信枚数：Ａ４版　２枚（本票含む）